



外国文献紹介

前交通動脈の動脈瘤に対してコイルによる塞栓術を行う際にコイルが前交通動脈を占拠することの安全性と有効性について

Choi HH et al : Safety and efficacy of anterior communicating artery compromise during endovascular coil embolization of adjoining aneurysms. J Neurosurg 132 : 1068-1076, 2020

筆者らは、対称的な A1 セグメントの血流を有する前交通動脈の動脈瘤の患者 285 例に対して、コイルを用いた塞栓術を行い、その臨床的転帰や血管造影検査の所見について検討した。その結果、71 例 (24.9%) で前交通動脈のコイルによる占拠がみられた。また、9 例 (3.2%) に、塞栓術に合併した血栓塞栓症が生じた。6 カ月以上経過観察を行った 276 例中 21 例に再開通がみられた。また、動脈瘤頸部が 4 mm 以下であることと、コイルによる前交通動脈の占拠が、再開通を妨げるうえで有効と考えられた。そして、前交通動脈の動脈瘤にコイルを用いた塞栓術を行う際に、A1 セグメントの血流が対称的であれば、重篤な副作用を伴うことなく、コイルによる前交通動脈の占拠が生じ、比較的長期間再開通を妨げる可能性がある」と述べている。

瀬戸一彦